

# Contest

【過去の結果発表】

## 2002年名曲アレンジコンテスト 結果発表

### ★ 該当作品なし★

ズーラシアンブラス作曲コンテストの第4のカテゴリー『名曲アレンジコンテスト』が行われ、9作品の応募がありました。残念ながら、残念ながら入選作品はありませんでした。応募下さった皆さん本当にありがとうございました。

今回は残念ながら、入選はありませんでしたが、皆さん、次回の『民謡アレンジコンテストアジア・日本編』にも是非挑戦してください。

(2003/01/14)

#### 【審査員】

中川 喜弘 Trumpet 奏者・アレンジャー  
岡田 友弘 指揮者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS  
久良木 文 Trumpet 奏者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS  
上里 友二 Horn 奏者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS  
近藤 陽一 Tuba 奏者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS

#### 【総評】

今回は、既存のクラシックの名曲をアレンジする部門でしたので、作曲や歌の編曲に見られたような、和声の間違いは無かったのですが、大編成の楽曲を金管五重奏という最小の編成に、原曲のイメージを残しつつ編曲しなくてはならないために、今まで以上に、和声に対する知識や感性が求められました。また、演奏する楽器が金管楽器という、連続演奏が困難な楽器であることから、【休みの作り方】も大きなテーマになりました。

今回の応募作品の多くに見られた現象として、聴衆や演奏者を無視したアレンジャーの思い入れ、または、金管に対する理解度の低さがあげられます。トランペットの音域が異常に高かったり、金管では演奏が困難なパッセージがあったり、全員で最後まで吹きっぱなしであったり、完全に【金管】を無視したものばかりでした。MIDIでアレンジするのはよいのですが、MIDIを金管の音色でならずことと、生の金管楽器を演奏することは全く別の問題です。こうした作品ばかりでは、わざわざ金管五重奏にアレンジする意味も亡くなってしまいます。金管奏者が演奏したいと思わなければ、いくらアレンジしても演奏されることはないのです。

また、楽器の音域も金管楽器の場合は鍵盤楽器や弦楽器とは異なり個人差があります。例えば、何某かの本に金管楽器の音域が書いてあったとしても、出る音と、演奏に使える音は全く違いますし、通常使用できる音域とごく希に使用できる音域も異なります。また、素早い運動性が求められるパッセージも、倍音の動きやスケールの動きに対して、これらとは異なる動きの場合には、可能な運動性も大きく変わってきます。

金管楽器の美しい純正律での和音などを生かさず、単純に弦楽器や鍵盤楽器の音色のみを金管に置き換えた作品がほとんどでしたので、今回は入選作品を選出するに至りませんでした。